

# 外国籍県民かながわ会議（第13期・第4回） 議事録

開催日：2025（令和7）年8月24日（日曜日）  
場所：かながわ県民センター3階 301会議室

## 1 開会（事務局）

会議のルール、会議の録音、欠席者及び配布資料等について説明した。

## 2 議題

### (1) 部会分けについて

資料1と資料2に沿って、部会分けの趣旨を柳委員長、韓委員、事務局から説明した。

・生活向上部会：外国籍県民の生活環境をよりよくするため、今ある仕組みに何か付け足す、または仕組みそのものを新しく作ることを検討する。

・情報部会：すでに多くある情報が外国籍県民の手元に届かない、伝わってこないということに課題意識を持ち、どうやってより効果的に情報を提供していくのがよいのかを検討する。

→出席した委員から、部会分けについて意見はなかったので、案の分け方で部会を進めていく。

### (2) 提言構想メモの修正版の発表

資料3に沿って、各委員が提言構想メモの修正点を発表した。

欠席した委員の提言構想メモについては、事務局が説明した。

## <質疑応答>

### ア 柳委員長の提言構想メモについて

（韓委員）

・学校の教育課程に入れようという話か。

（柳委員長）

・神奈川県に提言を出したら県立高校が対象になる。第二外国語を学ぶ目的に、外国につながるのある生徒たちが自分の母語を学ぶと

いう視点を入れてほしいという趣旨。

## イ モラレス副委員長の提言構想メモについて

(柳委員長)

・外国につながるのある人も、「日本社会で生活しているのだから日本の文化や日本語をもっと学ばないといけない」ということを知らせないといけない、という趣旨か。これはどういうふうに情報を伝えていくか、という部会の話にもつながる。

(モラレス副委員長)

・そのとおり。

## ウ 倉橋委員の提言構想メモについて

(モラレス副委員長)

・とてもよい。日本語ができないと、外国人高齢者はどこにも行けない。

(倉橋委員)

・介護保険などの制度を知らない人に向けて、多言語資料を作ったり、研修を開くととても助かるのではないかなと思う。外国人が集まるバーのようなものがあったてもよい。

(柳委員長)

・12期で高齢者に関する提言がでているので、それに付け足せないかという視点でも考えていたらよい。

## エ 蔣委員の提言構想メモについて

(韓委員)

・生活オリエンテーションはどういった層が対象か。

(蔣委員)

・転入したばかりの外国人、中長期の滞在者、技能実習以外の就労ビザの人たち、たとえば技能国や家族滞在の人でも対象になると思う。

(韓委員)

・県でどこまで面倒をみるべきかが軸になると思う。住民登録する際にオリエンテーションを用意している市や区もある。県が実施してください、と言うのは多分難しい。どこまでアプローチできるか。

(<sup>しょういじん</sup>蔣委員)

・たとえば、<sup>ねんかん</sup>2年間だけ<sup>けん</sup>県が<sup>おこな</sup>行い、その後<sup>ごしちょうそん</sup>市町村に<sup>ひ</sup>引き<sup>つ</sup>継ぐのもありうるのでは。

(<sup>いいん</sup>バ委員)

・<sup>じぶん</sup>自分が<sup>だいがく</sup>大学に<sup>い</sup>行っていたときは、<sup>だいがく</sup>大学から<sup>せつめい</sup>こういう説明があった。

(<sup>はんいじん</sup>韓委員)

・<sup>う</sup>受け入れ<sup>い</sup>機関があれば、その<sup>きかん</sup>機関が<sup>せきにん</sup>責任もって<sup>おこな</sup>行<sup>そう</sup>う。ない<sup>そう</sup>層にどうアプローチするか。それは<sup>けん</sup>県が<sup>めんどう</sup>面倒をみるべきものなのか。<sup>はな</sup>話し<sup>あ</sup>合いのなかで<sup>あき</sup>明らかにできるとよい。

## オ <sup>いいん</sup>ドン委員の<sup>ていげんこうそう</sup>提言構想メモについて

(<sup>ふくいじんちやう</sup>モラレス副委員長)

・とてもよい。<sup>がいこくじん</sup>外国人にも<sup>きやうちやう</sup>協<sup>ひつやう</sup>調が必要。<sup>にほん</sup>日本の文化、<sup>ぶんか</sup>日本の社会に<sup>にほん</sup>入らないといけない。

## カ <sup>いいん</sup>バ委員の<sup>ていげんこうそう</sup>提言構想メモについて

(<sup>りゅいじんちやう</sup>柳委員長)

・<sup>さつこん</sup>昨今の<sup>じやうせい</sup>情勢のなかで<sup>けんみんかいぎ</sup>県民会議としてどう<sup>う</sup>打ち<sup>だ</sup>出していくのか、ということは、<sup>じむきよく</sup>事務局も含めて<sup>ふく</sup>今後<sup>こんご</sup>話し<sup>あ</sup>合いが必要になると思う。

## キ <sup>はんいじん</sup>韓委員の<sup>ていげんこうそう</sup>提言構想メモについて

(<sup>じむきよく</sup>事務局)

・<sup>たいしかん</sup>大使館によっては、<sup>けんないがいこくじん</sup>県内外国人の<sup>じやうきやう</sup>状<sup>すべ</sup>況を<sup>はあく</sup>全て把握している。<sup>さいがい</sup>災害時<sup>じ</sup>の大使館の役割も含めて<sup>けんとう</sup>検討していただけるとよい。

(<sup>はんいじん</sup>韓委員)

・<sup>いま</sup>今も<sup>れんけい</sup>連携はあると思うが、<sup>おも</sup>大使館で<sup>たいしかん</sup>窓口を<sup>まどぐち</sup>設置し、<sup>せっち</sup>連携<sup>れんけい</sup>することはできるのではないかと。

## ク <sup>まつむらいじん</sup>松村委員の<sup>ていげんこうそう</sup>提言構想メモについて

(<sup>はんいじん</sup>韓委員)

・やさしい<sup>にほんご</sup>日本語で<sup>じゅけん</sup>受験のシステムの<sup>せつめい</sup>説明は<sup>かのう</sup>可能か。<sup>にほんじん</sup>日本人にも<sup>むずか</sup>難しく、<sup>じやうほうりやう</sup>情報量は<sup>そうとう</sup>相当ある。<sup>がっこう</sup>学校によって<sup>じやうほう</sup>情報<sup>こと</sup>も異なる。

この提言は、蔣委員やモラレス副委員長の提言と重なる点があるという印象。

(蔣委員)

・教育委員会では、高校進学ガイダンスを多言語で2回実施している。県立と私立で全然違うし、学校見学は、日本語での予約が必要になったので、外国人保護者にとって難しい。改善すべきはそこからだと思う。

(愈委員)

・先生は併願を勧めてくるが、調査や判断が難しい。それは外国人だからではない。

(韓委員)

・外国人だから、という側面もあり、そこに狙いをつけて提言しなければならない。観点を整理したい。

(柳委員長)

・選択のためには情報が必要。外国人への情報提供が不十分な側面もあり、それをどうするかという話になる。ヒアリングしながら課題を捉え、提言に入れられればよい。また、情報を得る努力も必要。努力せずにとめるだけではない、ということもベースに考えていきたい。最低限ここだけはしてください、という内容で提言に落とし込んでいく。

## ケ 愈委員の提言構想メモについて

(オオシロ副委員長)

・中学校に学習支援を増やしてほしいということか。

(愈委員)

・高校受験に向けて、中学校で理科や社会を増やしてほしい。

(韓委員)

・在県枠の在留要件の年数を短くしたいという意味か。

(愈委員)

・受験する人数が増えて枠が増えないなかで、来日したばかりの子どもにとっては平等でない状況となっている。子どもは勉強が早いので、在日3年を超えた子どもは、日本人と同じ枠で受験してほしい。

(蔣委員)

・6年から何年にしたいのか。

(<sup>ゆ い い ん</sup>愈委員)

- ・ 3年<sup>ねん もど</sup>に戻してほしい。

(<sup>しょう い い ん</sup>蔣委員)

- ・ 学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>と生活<sup>せい</sup>の日本<sup>に</sup>語<sup>ほん</sup>は異<sup>こと</sup>なり、学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>の日本<sup>に</sup>語<sup>ほん</sup>には6年<sup>ねん</sup>以上必要<sup>じょうひつよう</sup>というの<sup>う</sup>が教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>委員<sup>いん</sup>会<sup>かい</sup>の判<sup>はん</sup>断<sup>だん</sup>。私<sup>わたし</sup>たちが一<sup>いつ</sup>般<sup>ぱん</sup>論<sup>ろん</sup>で言<sup>い</sup>うのは違<sup>ちが</sup>う。

(<sup>はん い い ん</sup>韓委員)

- ・ 6年<sup>ねん</sup>から3年<sup>ねん</sup>になれば平<sup>び</sup>等<sup>やう</sup>になるとい<sup>い</sup>うことは検<sup>けん</sup>証<sup>しやう</sup>できな<sup>い</sup>い。特別<sup>とくべつ</sup>枠<sup>わく</sup>を増<sup>ふ</sup>やしてほ<sup>げん</sup>しいとい<sup>じやう</sup>うのは現<sup>むずか</sup>状<sup>じやう</sup>からして難<sup>むずか</sup>しい。

(<sup>りゅう い い ん ちやう</sup>柳委員長)

- ・ 県<sup>けん</sup>民<sup>みん</sup>会<sup>かい</sup>議<sup>ぎ</sup>の活<sup>かつ</sup>動<sup>どう</sup>で在<sup>ざ</sup>留<sup>りゅう</sup>要件<sup>やうけん</sup>が変<sup>か</sup>わった経<sup>けい</sup>緯<sup>い</sup>がある。県<sup>けん</sup>民<sup>みん</sup>会<sup>かい</sup>議<sup>ぎ</sup>として<sup>は</sup>、多<sup>おほ</sup>く<sup>お</sup>の生<sup>せい</sup>徒<sup>と</sup>のた<sup>わく</sup>め<sup>ふ</sup>に枠<sup>わく</sup>を増<sup>ふ</sup>やすとい<sup>てん</sup>う<sup>おも</sup>点<sup>お</sup>に重<sup>おも</sup>き<sup>お</sup>を置<sup>お</sup>いたほう<sup>が</sup>よ<sup>い</sup>い。

## コ オオシロ<sup>ふくい いん ちやう</sup>副<sup>てい</sup>委員<sup>げん</sup>長<sup>こう</sup>の提<sup>てい</sup>言<sup>げん</sup>構<sup>こう</sup>想<sup>そう</sup>メ<sup>め</sup>モ<sup>も</sup>について

(<sup>はん い い ん</sup>韓委員)

- ・ 方<sup>ほう</sup>言<sup>げん</sup>かど<sup>こ</sup>うか<sup>おし</sup>で子<sup>ない</sup>どもに教<sup>よう</sup>える内<sup>つた</sup>容<sup>こと</sup>が伝<sup>き</sup>わら<sup>そ</sup>ないのか。言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>と基<sup>き</sup>礎<sup>そ</sup>学<sup>がく</sup>力<sup>りよく</sup>の問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>が混<sup>ま</sup>ざ<sup>ま</sup>って<sup>い</sup>ないか。

(<sup>ふくい いん ちやう</sup>オオシロ副<sup>ふ</sup>委員<sup>くわん</sup>長<sup>ちやう</sup>)

- ・ 子<sup>こ</sup>どもは、認<sup>にん</sup>識<sup>しき</sup>して<sup>い</sup>る言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>と学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>するもの<sup>が</sup>結<sup>むす</sup>び付<sup>つ</sup>けられ<sup>か</sup>ない<sup>べ</sup>と壁<sup>かべ</sup>にぶ<sup>ぶ</sup>つ<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>つて<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>とも<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る。教<sup>き</sup>材<sup>ざい</sup>と<sup>して</sup>使<sup>つか</sup>われ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>る言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>が子<sup>こ</sup>ども<sup>の</sup>年<sup>ねん</sup>齢<sup>れい</sup>に合<sup>あ</sup>って<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>こ<sup>こ</sup>とも<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>ので</sup>、教<sup>き</sup>材<sup>ざい</sup>の<sup>み</sup>見<sup>み</sup>直<sup>なお</sup>し<sup>ひ</sup>も必<sup>ひ</sup>要<sup>よう</sup>だ<sup>お</sup>と思<sup>おも</sup>う。

(<sup>い い ん</sup>バ委員)

- ・ スペ<sup>ほん</sup>イン<sup>ごく</sup>本<sup>なん</sup>国<sup>べい</sup>と南<sup>ご</sup>米<sup>すこ</sup>の<sup>こと</sup>ス<sup>こ</sup>ペ<sup>こ</sup>イン<sup>こと</sup>語<sup>こと</sup>は少<sup>すこ</sup>し<sup>こと</sup>異<sup>こと</sup>なる。

(<sup>りゅう い い ん ちやう</sup>柳委員長)

- ・ 教<sup>き</sup>材<sup>ざい</sup>が合<sup>あ</sup>わ<sup>こ</sup>ない、子<sup>こ</sup>ども<sup>の</sup>来<sup>らい</sup>日<sup>に</sup>年<sup>ねん</sup>数<sup>すう</sup>、2<sup>よう</sup>つ<sup>いん</sup>の<sup>おも</sup>要<sup>き</sup>因<sup>よう</sup>が<sup>き</sup>あ<sup>き</sup>る<sup>き</sup>と思<sup>おも</sup>う。教<sup>き</sup>材<sup>ざい</sup>化<sup>か</sup>に<sup>しやう</sup>焦<sup>しやう</sup>点<sup>てん</sup>を<sup>ば</sup>あ<sup>こ</sup>て<sup>こと</sup>る<sup>ば</sup>場<sup>せん</sup>合<sup>てい</sup>、ど<sup>は</sup>の<sup>あ</sup>言<sup>は</sup>葉<sup>な</sup>を<sup>あ</sup>ど<sup>あ</sup>う<sup>あ</sup>選<sup>あ</sup>定<sup>あ</sup>する<sup>あ</sup>のか<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>話<sup>あ</sup>し<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>つて<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>く。

## 3 まとめ (<sup>りゅう い い ん ちやう</sup>柳委員長)

- ・ 次<sup>じ</sup>回<sup>かい</sup>の<sup>かい</sup>会<sup>ぎ</sup>議<sup>ぎ</sup>か<sup>ら</sup>部<sup>ぶ</sup>会<sup>かい</sup>別<sup>べつ</sup>協<sup>きやう</sup>議<sup>ぎ</sup>を<sup>する</sup>。

## 4 閉<sup>へい</sup>会<sup>かい</sup> (<sup>じむ きよく</sup>事務局)

- ・ 次<sup>じ</sup>回<sup>かい</sup>の<sup>かい</sup>会<sup>ぎ</sup>議<sup>ぎ</sup>は9<sup>がつ</sup>～10<sup>がつ</sup>月<sup>がつ</sup>と<sup>する</sup>こ<sup>を</sup>を<sup>つた</sup>伝<sup>つた</sup>え<sup>た</sup>。